

第7回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会 募集要項

大会概要

1 趣旨

二人の万葉歌人が国司として赴任した地、鳥取県。一人は「令和」の出典となった梅花の宴の場にいた山上憶良、もう一人は万葉集結びの歌を詠んだ大伴家持である。

このことから、全国の高校生を対象とした短歌大会を開催し、鳥取県が万葉集ゆかりの地であることを広く全国に発信するとともに、若い世代が日本古来の文化である短歌に親しむ契機とする。

2 大会名称

第7回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会

3 部門

(1) チーム部門

(2) 個人部門

※1人がチーム部門と個人部門の両方に応募することも可。ただし、同一作品での応募は不可。

4 日程

令和7年11月8日(土) 午後1時30分から午後3時45分

午後1時30分から午後2時30分 開会、チーム部門本選大会(準決勝・決勝)
(休憩)

午後2時45分から午後3時00分 表彰式

・チーム部門(優勝・準優勝・敢闘賞)
・個人部門(特別賞)

午後3時から午後3時45分 短歌トークセッション

※大会終了後、本選大会出場チーム、特別賞受賞者と本選大会審査員による交流会を予定。

5 会場

とりぎん文化会館第1会議室(鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

6 募集期間

令和7年6月6日(金)から9月4日(木)まで ※必着

7 対象者

令和7年度に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)、特別支援学校高等部、高等専門学校(3年生まで)に在籍している生徒。

なお、個人部門に限り、平成19年4月2日から平成22年4月1日の間に生まれた者(令和7年度中に16歳~18歳に到達する者)も対象とする。

8 参加料(投句料)

無料。ただし、応募に要する経費は応募者の負担とする。

チーム部門

【1】対象

1 参加資格

予選を通過した際に本選大会に参加できること。なお、宿泊を伴って参加する場合、保護者了承の上で教員又は保護者などの大人が同行できること。

2 チーム編成

同一校又は複数校の生徒で編成するものとし、1チーム3名とする。なお、1校から複数チームが応募することも可能であるが、チーム員は重複しないこと。

3 本選大会出場チーム数

- (1) 本選大会出場チームは予選審査を通過した4チームとする。
- (2) 主催者により、4チームのうち1チームについて開催地(鳥取県)枠を設けることができる。

【2】予選

1 応募方法

- (1) 以下の題を詠み込んだ短歌を1人1首創作する。なお、本選大会出場となった場合、準決勝においては予選に応募した短歌により対戦する。

先鋒「時」中堅「楽」大将「表」

【留意点】

- ①示された題(漢字)そのものを短歌に詠み込むこと。
なお、辞書に掲載されている読み方及び熟語の一部として使用することができる。
- ②1人1首・1チーム計3首とし、本人が創作した未発表の作品に限る。
(審査はそれぞれの作品について行うこととし、チーム内の作品の関連性は問わない。)

- (2) 次のいずれかの方法により、所属する学校を通じて応募する。

- ①鳥取県公式ウェブサイト「とりネット」内の「とっとり電子申請サービス」の応募フォームに必要事項を直接入力して送信する。(一度に入力できるのは1チームのみ。)
- ②指定のエクセルファイル(様式第1号 第7回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会 チーム部門応募様式)に必要事項を入力し、「とっとり電子申請サービス」の応募フォームにより提出する。(複数チームを入力可能。)
※「とっとり電子申請サービス」の利用が難しい場合は、電子メールで送付してもよい。

3 審査方法

書面審査により、本選大会へ出場する4チーム及び入選作品(若干数)を決定する。

4 審査員

大森静佳 氏(歌人、「塔」短歌会編集委員)

小島なお 氏(歌人、「コスモス」短歌会選者、2020年度「NHK短歌」選者)

5 予選審査結果の通知

- (1) 本選大会出場チームには、9月下旬までに各学校の連絡責任者(担当教員)を通じ、結果を通知するとともに、鳥取県文化政策課ウェブサイトにて公表する。
- (2) 入選については、本選大会までに各学校の連絡責任者(担当教員)を通じ、結果を通知する。

【3】本選大会

1 日時・会場

- (1) 日時 令和7年11月8日(土) 午後1時30分から午後3時45分
- (2) 会場 とりぎん文化会館第1会議室(鳥取県鳥取市尚徳町101-5)

2 審査員

大辻隆弘 氏(歌人、「未来」編集発行人・選者、宮中歌会始選者、現代歌人協会会員)
穂村 弘 氏(歌人、歌誌「かばん」所属、日経新聞歌壇選者)
江戸 雪 氏(歌人、「西瓜」同人、中之島歌会、2022年度「NHK短歌」選者)

3 対戦方法

予選審査を通過した4チームによるトーナメント方式の団体戦とし、本選大会当日は準決勝2試合及び決勝の計3試合を行う。(主催者が用意する万葉衣装を着用。)

勝敗は、作品の発表、審査員との質疑応答の内容を踏まえた上で、作品の優劣により判定する。

- (1) トーナメントの組み合わせは、事前に抽選を行い決定する。
- (2) 準決勝においては予選に応募した短歌にて対戦し、決勝の題は以下の通りとする。準決勝と役割を変更してもよい。また、別途主催者が連絡する期日までに、決勝で発表する作品を提出すること。

先鋒「**土**」中堅「**行**」大将「**然**」※留意点は準決勝の題と同様。

(3) 試合の流れ

- ① 1チームを、先鋒、中堅、大将の3名で構成。対戦する2チームが先攻・後攻の席へ着く。
- ② 先攻チームの先鋒が歌を発表(1分)。
※制限時間内で、歌とともに、作品の背景、作者の思い、工夫した点などを発表する。
- ③ 後攻チームの先鋒が歌を発表(1分)。
- ④ 先攻チームの先鋒に対する審査員による質疑応答(1分)。
- ⑤ 後攻チームの先鋒に対する審査員による質疑応答(1分)。
- ⑥ 3名の審査員がチーム名の札をあげて勝敗を決定(審査員1人につき1点、計3点)。
- ⑦ ②~⑥と同様に中堅、大将戦を実施。
- ⑧ 中堅戦の結果、2対0となり勝敗が決定した場合においても大将戦を実施。

4 表彰

- (1) 優勝 副賞:図書カード 1万5千円分/チーム、盾
- (2) 準優勝 副賞:図書カード 1万2千円分/チーム、盾
- (3) 敢闘賞 副賞:図書カード 6千円分/チーム ※2チーム

※入選作品は、本選大会当日のプログラム等に掲載する。

5 結果の公表

本選大会の結果及び作品については、大会後、鳥取県文化政策課ウェブサイトで学校名・学年・氏名と共に発表する。

また、本選大会の様子を撮影した動画を、大会後、鳥取県の公式 YouTube チャンネルにて公開予定。

6 大会参加費用の支援

本選大会出場チームが大会に参加するにあたり要した交通費・宿泊費は主催者が負担する。ただし、上限を1チームにつき150,000円とし、1チームに含まれるのはチーム員3名、同行者(教員又は保護者)1名までとする。

個人部門

1 応募方法

(1) 題(テーマ)は自由とし、応募作品は1人1首とする。

(2) 次のいずれかの方法により、所属する学校を通して、又は個人で直接応募する。なお、個人応募の場合は、以下の①の方法により応募すること。また、個人で直接応募した場合でも、所属する学校に応募又は入賞、入選に係る情報を提供することがある。

①鳥取県公式ウェブサイト「とりネット」内の「とっとり電子申請サービス」の応募フォームに必要事項を直接入力して送信する。(一度に入力できるのは1人分のみ。)

②指定のエクセルファイル(様式第2号 第7回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会 個人部門応募様式)に必要事項を入力し、「とっとり電子申請サービス」の応募フォームにより提出する。
(複数人を入力可能。)

※「とっとり電子申請サービス」の利用が難しい場合は、電子メールで送付してもよい。

2 審査方法

書面審査により、特別賞(審査員が1首ずつ選定)及び入選作品(大森静佳氏、小島なお氏が選考。若干数)を決定する。

3 審査員

大辻隆弘氏、穂村弘氏、江戸雪氏、大森静佳氏、小島なお氏

4 審査結果の通知

(1) 特別賞受賞者には、9月下旬までに、学校経由の応募の場合は各学校の連絡責任者(担当教員)を通じ、また個人応募の場合は本人に結果を通知し、表彰式出席の意向を確認する。

(2) 入選については、大会当日までに結果を通知する。

5 表彰

特別賞(5名) 副賞:図書カード 5千円分/名

※特別賞は、審査員が応募作品から1首ずつ選定し、11月8日(土)の表彰式において表彰を行う。その際、審査員からそれぞれの作品について選評を行う。(本選大会審査員は口頭、予選審査員は書面で行う。)

※入選作品は、大会当日のプログラム等に掲載する。

6 結果の公表

入賞・入選作品については、大会後、鳥取県文化政策課ウェブサイトで学校名・学年・氏名と共に発表する。

7 表彰式参加費用の支援

特別賞受賞者が表彰式に参加するにあたり要した交通費・宿泊費は主催者が負担する。ただし、上限を受賞者1名につき50,000円とし、同行者1名分の交通費・宿泊費を含むことも可能とする。

チーム部門・個人部門共通

【1】応募・お問い合わせ先

鳥取県地域社会振興部文化政策課

住所：〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地（鳥取県庁本庁舎6階）

電話：0857-26-7133／ファクシミリ：0857-26-8108

電子メール：bunsei@pref.tottori.lg.jp

ウェブサイト：<https://www.pref.tottori.lg.jp/tanka/> >>>



過去の大会の動画、
入賞・入選作品、審査員の
講評なども掲載しています。

(1) 「とっとり電子申請サービス」で応募する場合

ウェブサイト内の「とっとり電子申請サービス」の各応募フォームへのリンクから申し込む。

(2) 電子メールで応募する場合

ウェブサイトからエクセルファイルの様式をダウンロードし、必要事項を記入後、bunsei@pref.tottori.lg.jp へ送付する。電子メールの件名は「万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会応募」とすること。

※いずれの場合も、応募受付後、3日以内（閉庁日除く）に応募を受け付けた旨を電子メール等により連絡するので、折り返しの連絡がない場合は、必ず問い合わせること。

※締切は、令和7年9月4日（木）。※必着

※応募にあたりインターネットが使えない場合は、直接問い合わせること。

【2】交流会・万葉の郷ツアーについて

チーム部門の本選大会出場チーム及び個人部門の特別賞受賞者を対象に、交流会・万葉の郷ツアーを実施する。いずれも参加は任意で、参加費は無料。（日時等は予定であり、変更する場合がある。）

1 交流会

(1) 日時 令和7年11月8日（土）午後4時30分頃から 1時間程度

(2) 会場 とりぎん文化会館 会議室

(3) 内容 当日参加された高校生と本選大会審査員による意見交換など。

2 万葉の郷ツアー

(1) 日時 令和7年11月9日（日）午前中

(2) 内容 鳥取市内の万葉集ゆかりの地（因幡万葉歴史館、因幡国庁跡、大伴家持歌碑など）及び鳥取砂丘周辺を訪問する。

【3】個人情報、肖像権及び著作権の取扱いについて

本大会への参加における個人情報、肖像権及び著作権については以下のとおり取り扱うものとする。

1 個人情報

(1) 当日プログラムに学校名・学年・氏名を掲載する。

(2) 会場内でアナウンス、スクリーン等により学校名・学年・氏名を紹介する。

(3) 鳥取県公式ウェブサイト及び公式ソーシャルメディア（Facebook、X、YouTube を含む。以下「公式サイト」という。）に学校名・学年・氏名を掲載することがある。

(4) 大会関係者、報道機関、後援団体、及び協力機関等に学校名・学年・氏名を情報提供することがある。

(5) (2) から(4)までに記載した方法により、大会結果（各対戦の結果を含む。）とともに参加者の学校名・

学年・氏名を公表することがある。

- (6) 参加者から提供されたすべての個人情報、大会出場に係る連絡及び通知、大会に関する統計（個人を特定できない範囲での利用とする。）等、大会に関する目的で使用することがある。
- (7) 主催者が取得した参加者の個人情報は、上記の利用目的以外に使用しないものとする。ただし、主催者は、取得した個人情報を取り扱う業務の一部または全部を外部に委託することがある。

2 著作権及び肖像権

- (1) 本大会に応募、発表された作品（応募したが入賞・入選しなかった作品、及び決勝用の作品として主催者に提出したが本選大会当日に発表されなかった作品を除く。）の著作権は、主催者に帰属する。ただし、作者個人や各学校の作品集、ホームページ等への転載については、本大会の作品である旨を明記した上で、掲載を許可する。
- (2) 主催者が撮影した映像及び写真の著作権は主催者に帰属するものとし、当該映像及び写真の利用及びこれに伴う編集、改変についての異議申し立て等は原則として受け付けない。
- (3) 大会における映像、写真等の肖像権については、参加申込をもって、その使用を承諾したものとみなす。
- (4) 主催者、報道機関、後援団体、及び協力機関等により撮影された参加者の映像が、中継、放送及びインターネット配信により公開されることがある。また、当該映像が DVD 等に編集され、配布されることがある。
- (5) 主催者、報道機関、後援団体、及び協力機関等により撮影された参加者の写真（電子データを含む。）が公式サイト、新聞、雑誌等の印刷物及びインターネット等に掲載されることがある。
- (6) 主催者が撮影した映像若しくは写真を大会関係者、報道機関、後援団体、及び協力機関等に提供することがある。
- (7) その他、主催者に許可を受けた者によって撮影された映像及び写真が公開されることがある。

【4】その他

- (1) 大会出場に伴う11月8日（土）の宿泊先は、主催者が準備することとする。前日に宿泊（鳥取市内に限る）が必要となる場合は、別途相談すること。
- (2) 災害、その他やむを得ない理由のため、本募集要項に記載した内容を変更する場合がある。
- (3) 入賞又は入選した作品が既出の短歌、歌詞等に酷似している場合は、入賞等を取り消す場合がある。

【5】主催・後援

1 主催

鳥取県

2 後援

鳥取県教育委員会 鳥取県高等学校文化連盟 鳥取県歌人会 朝日新聞鳥取総局 共同通信社鳥取支局 山陰中央新報社 産経新聞社 新日本海新聞社 時事通信社鳥取支局 中国新聞鳥取支局 毎日新聞鳥取支局 読売新聞鳥取支局 NHK鳥取放送局 TSKさんいん中央テレビ テレビ朝日鳥取支局 日本海テレビ BSS山陰放送 一般社団法人鳥取県ケーブルテレビ協議会（順不同）

審査員プロフィール

大辻隆弘氏

『未来』編集発行人・選者。

現代歌人協会会員、現代歌人集会理事、日本文藝家協会会員、中部日本歌人会副委員長、宮中歌会始選者。

第29回斎藤茂吉短歌文学賞、第12回島木赤彦文学賞、第3回佐藤佐太郎短歌賞、第15回小野市詩歌文学賞(短歌部門)、第29回若水牧水賞を受賞。

歌集『景德鎮』『樟の窓』評論集『近代短歌の範型』など著書多数。

2019年度NHK短歌選者。高校教諭(国語科)。

穂村弘氏

歌人。1962年札幌市生まれ。短歌のほかに評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。

著書に『手紙魔まみ、夏の引越し(ウサギ連れ)』『ラインマーカーズ』『シンジケート(新装版)』『はじめての短歌』『短歌のガチャポン』『蛸足ノート』『迷子手帳』など。『短歌の友人』で伊藤整文学賞、『鳥肌が』で講談社エッセイ賞、『水中翼船炎上中』で若山牧水賞を受賞。

江戸雪氏

1993年に短歌を始める。河野裕子のもと「塔」短歌会にて活動した後、2021年夏に同人誌「西瓜」、2022年夏に同人誌「Lily」創刊。大阪市咲くやこの花賞文芸部門受賞。

歌集は『昼の夢の終わり』『声を聞きたい』『空白』『カーディガン』ほか8冊あり、入門書『今日から歌人!』がある。

情感豊かで先進的な作風は、性別や年齢層を問わず共感を得ている。大阪市在住。

大森静佳氏

1989年岡山市生まれ。高校時代に短歌と出会い、大学在学中に第56回角川短歌賞を受賞。

歌集に『てのひらを燃やす』『カミーユ』『ヘクタール』、評論集に『この世の息 歌人・河野裕子論』がある。

2018年から笹井宏之賞の選考委員を務める。「塔」短歌会編集委員。

小島なお氏

「コスモス」短歌会所属。歌人である母、小島ゆかりの影響を受け、高校生のとき、短歌を詠み始める。

2004年、角川短歌賞受賞。2007年、第一歌集『乱反射』(角川書店)刊行。本書により、第八回現代短歌新人賞、第十回駿河梅花文学賞を受賞。

同年、第二歌集『サリンジャーは死んでしまった』(角川書店)刊行。2020年、第三歌集『展開図』(柊書房)刊行。2022年、千葉聡との共著『短歌部、ただいま部員募集中!』(岩波書店)刊行。

2016年、2020年「NHK短歌」選者。

2023年、第一歌集『乱反射』新装版(書肆侃侃房)刊行。

歌壇賞選考委員。信濃毎日新聞歌壇欄選者。

第6回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会受賞作品

※学年は受賞当時のものです。

【チーム部門】

優勝 チーム名「御露」（高田高等学校）

先鋒 通学カバン投げ捨て会話も放棄してウミウシの棲む街へ行きたい 一年 櫻井 つむぎ

中堅 穏やかな湖面に雪の降ることく細胞ひとつひとつ死にゆく 二年 神田 実咲

大将 黒板に白く大きく革命と書く窓の結露は大粒になる 一年 高取 ゆり

【個人部門】

大辻隆弘賞 一つだけ自転車のある駐輪場いつ明けるのかわからない夜 神奈川県立光陵高等学校 二年 洲崎 大知

穂村弘賞 文末の小さな丸の名を忘れ「ピリオド日本語訳」出てこない 神奈川県立光陵高等学校 一年 藤井 綾音

江戸雪賞 ちりめんじゃこじゃこじゃこじゃこさくらえび少数派を排除するクラス 高田高等学校 三年 加藤 晴香

大森静佳賞 サングルは生まれたばかりの陽の光水の光に包まれていて 名古屋高等学校 二年 福田 匠翔

小島なお賞 文化なんてないこの祭りでは僕はあなたをおどろかす お化け役B 東京都立千早高等学校 三年 磯部 洋希

短歌大会のウェブサイトでは、過去の大会の動画、
入賞・入選作品、審査員の講評などを掲載しています。
ぜひご覧ください。

『万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会』で検索！

